過去の縄文ゼミナールの紹介

過去に開催した縄文ゼミナールをご紹介します。以前は「地域の考古学」研究の成果を一般の方々に還元する機会として年１回開催していましたが、平成 18 年度（2006 年度）以降、シリーズ的な内容で複数回の開催としています。主に、八ヶ岳西南麓の縄文文化そのものをテーマにしたり、その特質を掘り下げる目的で他地域の遺跡の紹介、また遺跡の保存や活用についても取り上げています。
なお、下記に紹介する各年度の内容で、講師の方の所属役職は当時のものです。
当日の配布資料は当館の図書コーナーで閲覧できます。

H18　H19　H20　H21　H22　H23　H24　H25　H26　H27　H28　H29　H30　R1
R2　R3

●平成 18 年度（2006 年度）

これまで年１回の開催だった「縄文ゼミナール」の機会を拡大し、八ヶ岳西南麓の縄文文化に因んだ「地域の考古学」の普及に努めるため、茅野市内の遺跡や出土資料を中心に取り上げて語ります。

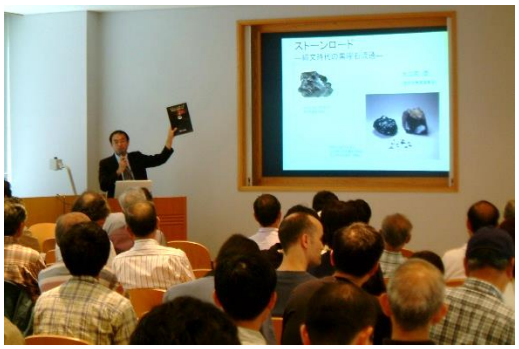
1. 「仮面の女神と神像土偶」（長野県立歴史館　宮下健司さん）
2. 「八ヶ岳山麓の縄文世界」（第２回尖石縄文文化賞受賞者　勅使河原彰さん）
3. 「宮坂英弐先生の思い出話」（尖石ボランティア　林賢さん）
4. 「尖石遺跡の縄文集落　最近の試掘調査によって集落観がどう変わったか」（茅野市教育委員会　小林深志）
5. 「棚畑遺跡　国宝縄文のビーナス発見の縄文中期集落遺跡」（茅野市尖石縄文考古館館長　鵜飼幸雄）
6. 「梨ノ木遺跡　縄文ムラ千年の遷り変わり」（茅野市教育委員会　小林健治）

第１回講師の宮下健司さん（左）、第２回講師の勅使河原彰さん（中）、第３回講師の林賢さん（右）

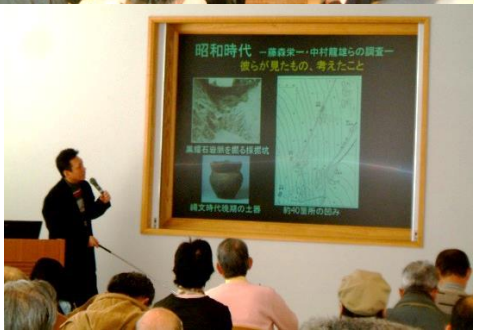
●平成 19 年度（2007 年度）

縄文時代と聞いて多くの方が連想するもののひとつ、黒曜石。霧ヶ峰一帯は本州最大規模の黒曜石原産地だと言われます。平成 19 年度はテーマを黒曜石に絞り、年６回開催します。

1. 「黒曜石 3 万年の旅」（浅間縄文ミュージアム　堤隆さん）
2. 「ストーンロードをたどる　縄文時代の黒曜石流通」（安中市教育委員会　大工原豊さん）
3. 「黒潮を渡った黒曜石」（沼津市教育委員会　池谷信之さん）
4. 「信州産黒曜石と旧石器時代人」（長野県立歴史館　大竹憲昭さん）
5. 「黒曜石の流通の背景を探る」（長和町教育委員会　大竹幸恵さん）
6. 「黒曜石の山を掘る　縄文黒曜石鉱山の研究」（下諏訪町教育委員会　宮坂清さん）



第 1 回のようす（左）、第 2 回のようす（右）。
第 2 回は非常に盛り上がり、予定時間を 1 時間以上も超える熱い講座となりました。



第 3 回（左上）、第 4 回（右上）、第 5 回（左下）、第 6 回（右下）

●平成 20 年度（2008 年度）

平成 20 年度のテーマは「縄文の美と造形」です。茅野市尖石縄文考古館の特別展と連動したものです。
考古学的な見方（例えば、年代や地域の指標として土器を観察する）とは一味違った面白さが感じられることと思います。

1. 「岡本太郎の縄文発見」（明治学院大学教授　山下裕二さん）
2. 「縄文時代中期土器の造形と装飾」（文化庁　土肥孝さん）
3. 「縄文土器が美術になるまで」（武蔵野美術大学講師　鈴木希帆さん）
4. 「土器の造形にみる縄文人の祈りの姿」（大正大学講師　澁谷昌彦さん）
5. 「縄文土器に施された図像とその帰趨」（元井戸尻考古館館長　武藤雄六さん）

第 1 回は美術史家の山下裕二さん（左）、第 2 回は実物資料も使いながらの講義（講師は土肥孝さん、右）

第 3 回鈴木希帆さん（左）、第 4 回澁谷昌彦さん（中）、第 5 回武藤雄六さん（右）

どの回も、今の私たちが「美術」として見ることとその意味であるとか、土器造形、文様にこめられた思いであるとか、論文や展示解説版ではうかがえないテーマでした。

●平成 21 年度（2009 年度）

平成 12 年（2000 年）に「茅野市尖石縄文考古館」としてリニューアル開館して 10 年目を迎えます。この間、縄文集落研究に熱意をもって取り組んだ宮坂英弐氏の業績を顕彰する「宮坂英弐記念尖石縄文文化賞」も運営し、縄文研究に大きな功績のあった受賞者の方々を表彰してきました。本年は、過去の受賞者の方々を講師に迎え、全８回にわたって研究成果について語っていただきます。

1. 「縄文時代を学ぶ」（第 2 回尖石縄文文化賞受賞者　勅使河原彰さん）
2. 「縄文時代のはじまり」（第 6 回尖石縄文文化賞受賞者　谷口康浩さん）
3. 「縄文ムラの暮らし」（第 4 回尖石縄文文化賞受賞者　山本暉久さん）
4. 「海辺の縄文文化」（第 5 回尖石縄文文化賞受賞者　堀越正行さん）
5. 「縄文のおわりと弥生のはじまり」（第 9 回尖石縄文文化賞受賞者　山崎純男さん）
6. 「山麓の縄文文化」（第 3 回尖石縄文文化賞受賞者　会田進さん）
7. 「黒曜石がむすぶ海と山」（第 7 回尖石縄文文化賞受賞者　池谷信之さん）
8. 「日本海がむすぶ縄文文化と大陸文化」（第 8 回尖石縄文文化賞受賞者　藤田富士夫さん）

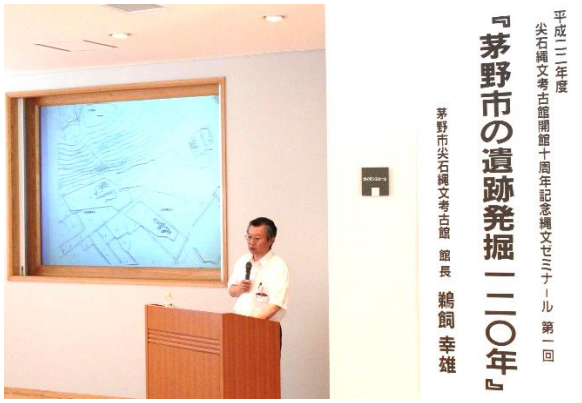
第 1 回の勅使河原彰さん（左上）、第 2 回の谷口康浩さん（中上）、第 3 回の山本暉久さん（右上）、第 4 回の堀越正行さん（左下）、第 6 回の会田進さん（中下）、第 7 回の池谷信之さん（右下）

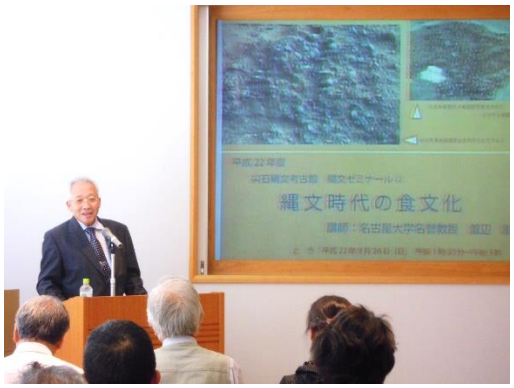
なお、本事業は信濃毎日新聞社、財団法人信毎事業文化財団の後援を受けて開催しました。

●平成 22 年度（2010 年度）

茅野市尖石縄文考古館リニューアル開館１０周年を記念する特別展とシンポジウムの開催と連動させ、茅野市の埋蔵文化財の調査を振り返る内容と、近年多くの関心が集まっている自然の恵みを多角的に利用していた縄文時代の食文化を取り上げる内容で実施します。

1. 「茅野市の遺跡発掘 120 年」（茅野市尖石縄文考古館館長　鵜飼幸雄）
2. 「縄文時代の食文化」（名古屋大学名誉教授　渡辺誠さん）
3. 「縄文クッキーの考古学」（國學院大學助手　中村耕作さん）
4. 「肉食を探る」（茅野市尖石縄文考古館　功刀司・山科哲）
5. 「人骨から復元する縄文人の食生活」（東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授　米田穣さん）

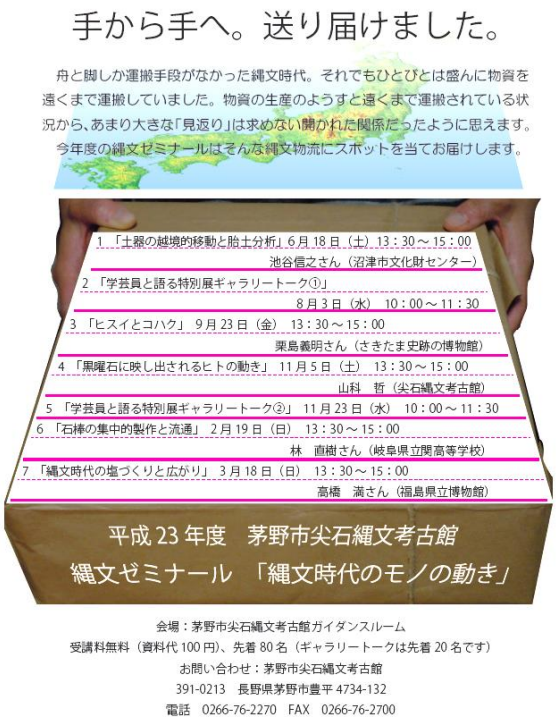




第１回（左最上）、第２回（右上から１番目）、
第３回（左中）、第４回（左最下）、
第５回（右上から２番目）各回のようす

●平成 23 年度（2011 年度）

車はもちろん、牛馬さえもない縄文時代。物資を運搬するためには、舟と徒歩しか手段がありませんでした。それでも、黒曜石やヒスイをはじめとして、産出する場所が限定される資源はもちろん、実用品ではない「まつり」の道具さえもさかんに遠くへ運んでいました。その物資の動きは、“出し惜しみ”をしない、広く開かれたものだったようです。近年の理化学的な分析の紹介も含めて、土器、黒曜石、ヒスイとコハク、石棒、塩から、縄文時代の広域物流システムを解き明かします。
また、7 月～11 月に開催予定の特別展『聖石遺跡展』の期間中に、学芸員と土器について思うさま語り合うギャラリートークも縄文ゼミナールの一環として開催。



会場：茅野市尖石縄文考古館ガイダンスルーム
受講料無料（資料代 100 円）、先着 80 名（ギャラリートークは先着 20 名です）
お問い合わせ：茅野市尖石縄文考古館
391-0213 長野県茅野市豊平 4734-132
電話 0266-76-2270 FAX 0266-76-2700

1. 「土器の越境的移動と胎土分析」（沼津市文化財センター 池谷信之さん）
2. 「学芸員と語る特別展ギャラリートーク(1)」
3. 「ヒスイとコハク」（さきたま史跡の博物館 栗島義明さん）
4. 「黒曜石に映し出されるヒトの動き」（茅野市尖石縄文考古館 山科哲）
5. 「学芸員と語る特別展ギャラリートーク(2)」
6. 「石棒の集中的製作と流通」（岐阜県立関高等学校教諭 林直樹さん）
7. 「縄文時代の塩づくりと広がり」（福島県立博物館 高橋満さん）

第 1 回の池谷信之さん（左）、第 6 回の林直樹さん（中）、第 7 回の高橋満さん（右）
第 6 回では石棒の実物資料も使いながらの講座となり、とても盛り上がりました。

●平成 24 年度（2012 年度）

八ヶ岳の縄文文化の特徴といえば、何といっても土器の造形だと言えます。土器は、年代を測る目安であると同時に、当時の地域を分かつ目安にもなりますが、縄文土器というものは、世界史的に狩猟採集社会の産物でありながら類まれな造形でできている、という特徴があります。
そのなかでも八ヶ岳山麓の土器（中期）は、火炎土器と並んで縄文土器を代表する造形が際立っています。今年度の縄文ゼミナールは、そうした土器を取り上げ、土器造形からわかることを語っていただきます。

1. 「八ヶ岳山麓の縄文土器を語る」
2. 「学芸員と語る特別展ギャラリートーク(1)」
3. 「尖石遺跡蛇体装飾把手土器の子孫たち」（北相木村教育委員会　藤森英二さん）
4. 「学芸員と語る特別展ギャラリートーク(2)」
5. 「有孔鍔付土器と八ヶ岳山麓の考古学」（川崎市市民ミュージアム　副島蔵人さん）
6. 「縄文土器の彩色」（第 3 回尖石縄文文化賞受賞者　会田進さん）

尖石遺跡を代表する土器が昭和 8 年（1933 年）出土の蛇体把手付深鉢形土器ですが、その蛇体把手付土器や蛇体装飾付土器について藤森英二さんに語っていただいた回では、講座終了後も質問に次ぐ質問で盛り上がりました。

副島蔵人さんに有孔鍔付土器について語っていただいた第 5 回（左）も講座終了後に質問が続出しました。右は彩色土器について語っていただいた第 6 回のようす。

●平成 25 年度（2013 年度）

昨年度に引き続き、八ヶ岳の縄文文化の特徴の筆頭でもある土器の造形をテーマに開催します。
今年度は特に文様に焦点をあてて開催します。文様からどのようなことが読み解けるのか、ご期待ください。また、それらの土器を「作って」「使う」わけですが、そうした痕跡についても語っていただきます。

1. 「抽象文について」（甲州市文化財指導監　小野正文さん）
2. 「学芸員と語る特別展ギャラリートーク(1)」
3. 「文様解読から見える縄文人の心」（茅野郷土研究会　武居幸重さん）
4. 「土器の文様から読み解く縄文社会」（山梨県埋蔵文化財センター　今福利恵さん）
5. 「学芸員と語る特別展ギャラリートーク(2)」
6. 「縄文土器を作る・観る・読む」（明治大学日本先史文化研究所　阿部芳郎さん）
7. 「棚畑遺跡と川崎の縄文ムラ」（かわさき市民アカデミー副学長　村田文夫さん）、「茅野市の縄文遺産を未来に伝える」（茅野市尖石縄文考古館館長　鵜飼幸雄）

小野正文さんを迎え、普段展示をしていない資料を出しての講座となった第 1 回。

第 4 回（左）、第 6 回（右）のようす

なお、第 7 回は鵜飼幸雄館長の退職記念で開催しました。

●平成 26 年度（2014 年度）

重要文化財「土偶」（仮面の女神）が国宝答申を受けました。これを踏まえて、土偶祭祀や縄文時代のヒトの表現、土製耳飾りを通じて縄文時代の社会構造に迫ります。
また、近年大きな話題となっている縄文時代の植物利用に関する内容の講座も開催します。

1. 「縄文土器の種子圧痕から見えてくること」（長野県考古学会　中沢道彦さん）
2. 「仮面の女神から見える土偶の世界」（長野県上伊那農業高校教諭　三上徹也さん）
3. 「中ッ原遺跡の調査と仮面の女神の出土状況」（茅野市尖石縄文考古館館長　守矢昌文）
4. 「縄文時代の人面・獣面」（甲州市文化財指導監　小野正文さん）
5. 「縄文時代の植物利用と編む技術」（株式会社パレオ・ラボ　佐々木由香さん）
6. 「耳飾と縄文社会」（金沢大学国際文化資源学研究センター　吉田泰幸さん）

第 1 回のようす

第 2 回（左上）
第 3 回（右上）
第 4 回（左下）
第 5 回（右下）
各回のようす

●平成 27 年度（2015 年度）

昨年、中ッ原遺跡の大形中空土偶、通称「仮面の女神」が国宝に指定されました。意図的な破壊と破片を胎内等に埋め込むという儀礼行為を伴う副葬品であること、そしてたぐいまれなる造形が「仮面の女神」の特徴ですが、造形ということでは、縄文中期の縄文土器の造形も素晴らしいものがあります。
今年度は、関東中部における縄文中期の土器造形の頂点に位置づけられる土器の特別展『縄文土器造形の頂点　5000 年後の競演』と関連づけ、火焔型土器と水煙把手付土器を含む曽利式土器についての講演のほか、昨年度に好評を博した「日本国宝展」を踏まえて、国指定文化財における土偶の位置づけについての講演会と縄文時代の史跡の整備の一取り組み例を紹介する講演会でお送りします。

1. 「縄文土器についたへこみ（圧痕）から縄文時代の生活を考える」（種子圧痕レプリカ採取ワークショップと研究発表会）
2. 「市街地に眠る縄文のムラ　新史跡下野谷（したのや）遺跡の挑戦」（西東京市教育委員会　亀田直美さん）
3. 「曽利式土器の世界観」（帝京大学文化財研究所　櫛原功一さん）
4. 「縄文時代中期の華　火焔型土器」（十日町市博物館　菅沼亘さん）
5. 「指定制度の歩みと縄文時代の国宝」（東京国立博物館　品川欣也（よしや）さん）

第 1 回のワークショップ（左）、研究発表会（中）、質疑応答（右）

第 2 回講師の亀田直美さん（左）、第 4 回講師の菅沼亘さん（中）、第 5 回講師の品川欣也さん（右）

●平成 28 年度（2016 年度）

昨年、国特別史跡尖石遺跡の今後について、「保存管理計画」を策定しました。尖石遺跡は縄文集落研究に先鞭をつけた遺跡であり、縄文時代の集落研究においては忘れられない遺跡です。今年度の縄文ゼミナールは、この尖石遺跡の価値を再確認する目的で、尖石遺跡の集落研究について語っていただくほか、尖石遺跡がある内陸山間部とは立地が異なる海浜部の貝塚を伴う集落をテーマとした講座、またそれぞれの地域の土器の特徴とその動きをテーマとした講座を開催します。

1. 「縄文集落研究の原点となった尖石遺跡と八ヶ岳山麓の縄文社会」（文化財保存全国協議会常任委員　勅使河原彰さん）
2. 「焼町式土器について　八ヶ岳東側の土器文化」（長野県立歴史館上席学芸員　寺内隆夫さん）
3. 「東京湾沿岸の「貝塚文化」を支えた人々と生産活動」（千葉市埋蔵文化財センター　西野雅人さん）
4. 「交流する縄文土器」（東京国立博物館研究員　井出浩正さん）

第 1 回講師の勅使河原彰さん（左）、第 2 回講師の寺内隆夫さん（中）と、当日は茅野市内出土の「焼町式土器」で普段は展示していないものを展示しました（右）。

第 3 回講師の西野雅人さん（左）と第 3 回のようす（中）、第 4 回講師の井出浩正さん（右）。第 4 回では、茅野市内出土の阿玉台（あたまだい、またはおたまだい）式土器を展示ケースから出してガイダンスルームに展示しました。

●平成 29 年度（2017 年度）

八ヶ岳西南麓は、縄文文化がもっとも栄えた地域のひとつであり、多くの縄文時代遺跡があります。それらのなかには、日本の縄文時代考古学の研究に大きな影響を与えた遺跡や資料もあります。
今年度の縄文ゼミナールは、それら諏訪郡内の縄文に関する国指定文化財（史跡、重要文化財等）や古くから著名な遺跡等を題材にして、その研究、保存、教育普及に取り組んできた各市町村の職員に、その価値や重要性を語っていただきます。

1. 「”おらあとう“の考古学　井戸尻の発掘と研究」（富士見町教育委員会　小松隆史さん）
2. 「縄文人の祈りの地　阿久遺跡」（原村教育委員会　佐々木潤さん）
3. 「黒曜石鉱山から考える縄文人の生活」（下諏訪町教育委員会　宮坂清さん）
4. 「諏訪湖底「曽根遺跡」」（諏訪市博物館　中島透さん）
5. 「梨久保遺跡からみえてくるもの」（岡谷市教育委員会　山田武文さん）
6. 「国史跡「上之段石器時代遺蹟」と「駒形遺跡」（茅野市教育委員会　小池岳史）
7. 特別編「考古館長が語る遺跡発掘あのとき」（茅野市教育委員会　守矢昌文）

第 1 回講師の小松隆史さん（左上）、第 2 回講師の佐々木潤さん（中上）、第 3 回講師の宮坂清さん（右上）、第 4 回講師の中島透さん（左下）、第 5 回講師の山田武文さん（中下）、特別編の守矢昌文館長（右下）

なお、特別編は守矢昌文館長の退職記念で開催しました。

●平成 30 年度（2018 年度）

縄文時代と聞いて、思い浮かべるものは土偶だったり土器だったり黒曜石の矢じりだったり、年代のことや食べ物のことなど、人それぞれいろいろとあると思います。そして、さまざまな書籍や図録には、そうした縄文時代像がときにやさしく、ときに詳しく書かれています。
頭に思い浮かぶ縄文時代像や書籍に記される縄文時代像は、当たり前のことですが、遺跡の発掘調査や研究成果に基づくものです。今年度の縄文ゼミナールは、そうした縄文時代像に多大な影響を与えてきた遺跡について語っていただきます。

1. 「縄文のタイムカプセル鳥浜貝塚の今昔」（若狭三方縄文博物館　小島秀彰さん）
2. 「釈迦堂遺跡の発掘とその成果」（釈迦堂遺跡博物館　一瀬一浩さん）
3. 「北の拠点　三内丸山遺跡　津軽海峡文化圏を考える」（青森県庁企画政策部世界遺産登録推進室長　岡田康博さん）
4. 「神子柴遺跡をめぐる 4 つの謎」（明治大学黒耀石研究センター客員研究員　堤隆さん）
5. 「北村縄文人とその暮らし」（長野県埋蔵文化財センター　平林彰さん）

第 1 回講師の小島秀彰さん（左上）、第 2 回講師の一瀬一浩さん（右上）、第 3 回講師の岡田康博さん（左下）、第 4 回講師の堤隆さん（右下）

●令和元年度（2019 年度）

平成 30 年度に引き続き、縄文時代研究に多大な影響と業績を残した遺跡を題材として語っていただきます。
第 1 回は、平成 30 年度に行われた茅野市の辻屋遺跡の発掘調査について、第 2 回は、南佐久郡北相木村の国史跡、栃原岩陰遺跡について、第 3 回は、新潟県糸魚川市の国史跡、長者ヶ原遺跡について、第 4 回は、山梨県北杜市の国史跡、梅之木遺跡について、第 5 回は、秋田県鹿角市の特別史跡、大湯環状列石についてです。
（第 5 回「大湯環状列石のあゆみ」は中止となりました。）

1. 「辻屋遺跡の発掘調査」（茅野市教育委員会　鵜飼幸雄）
2. 「国史跡　栃原岩陰遺跡から見た 1 万年前の人々の暮らし」（北相木村教育委員会　藤森英二さん）
3. 「翡翠と石斧のふるさと　長者ヶ原遺跡」（糸魚川市教育委員会　木島勉さん）
4. 「史跡　梅之木遺跡　竪穴住居の復元から分かった縄文のくらし」（北杜市教育委員会　佐野隆さん）
5. 「大湯環状列石のあゆみ」（鹿角市教育委員会　赤坂朋美さん）
   ※令和元年東日本台風のため延期、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

第 1 回講師の鵜飼幸雄（左上）、第 2 回講師の藤森英二さん（右上）、第 3 回講師の木島勉さん（左下）、第 4 回講師の佐野隆さん（右下）

●令和 2 年度（2020 年度）

尖石縄文考古館では、国宝「土偶」（縄文のビーナス）と、国宝「土偶」（仮面の女神）、2 体の国宝「土偶」が展示されています。国宝の土偶だけでなく、茅野市内の遺跡からは沢山の土偶が出土しています。その大きさや形は様々で、1 つ 1 つの土偶の使われ方や、込められた思いも異なります。令和 2 年度（2020 年度）は、そんな縄文時代の土偶について、また、フランス後期旧石器時代のヴィーナス像についてご講演いただきます。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前申し込み制とし、例年の半分の 40 名という定員を設けて開催します。

1. 「フランス後期旧石器時代のヴィーナス像」（東京藝術大学講師　五十嵐ジャンヌさん）
2. 「鋳物師屋遺跡出土の土偶　子宝の女神ラヴィとその周辺」（南アルプス市教育委員会　保阪太一さん）
3. 「みみずく土偶―後谷遺跡の土偶たち―」（桶川市教育委員会　藤沼昌泰さん）

第 1 回講師の五十嵐ジャンヌさん（左上）、第 2 回講師の保阪太一さん（右上）、第3回講師の藤沼昌泰さん（左下）

●令和 3 年度（2021 年度）

令和 3 年度は、総括報告書を作成している尖石遺跡についての内容と、秋期に開催予定の企画展示「背中から見る土偶」にちなんで、土偶についての内容で開催します。
また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和 2 年度と同じく定員を 40 名とし、事前申し込み制で開催します。

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、尖石縄文考古館が 9 月 3 日（金曜日）から 9 月 29 日（水曜日）まで臨時休館となった関係で、第 2 回が延期となりました。
また、第 4 回は中止となりました。）

1. 「尖石遺跡出土の土器付着物分析と黒曜石の産地推定分析について」（茅野市教育委員会　山科　哲）
2. 「尖石遺跡出土の土偶と芯材について」（茅野市教育委員会　守矢　昌文）
3. 「土偶の穴とその意味」（山梨県埋蔵文化財センター　佐賀　桃子さん）
4. 「与助尾根遺跡谷部の調査」（茅野市教育委員会）　※中止

第 1 回講師の山科哲（左上）、第 2 回講師の佐賀桃子（右上）、
第 3 回講師の山科哲（左下）。

＜配布資料で残部のあるものは、1 部 100 円で購入することもできます。＞